

たちかわの未来の環境を語ろう！ 第2回たちかわ環境 市民ワークショップ ニュースレター

発行元 立川市環境資源循環部環境対策課

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップの結果を踏まえて、さらにグループの分野ごとに目指す立川市の環境の10年後を主なテーマに議論しました。

また、2050年カーボンニュートラルの実現という大きな目標に向けて市民・事業者・市それぞれの立場からできる地球温暖化対策について、立川市のCO₂排出状況等の現状や省エネ・創エネの必要性を把握したうえで、グループの分野を問わず共通のテーマとして議論しました。

<開催概要>

1. 日時
令和6年3月30日(土)
13時から15時半
2. 場所
立川市役所内 会議室
3. 参加人数
13人

<プログラム>

1. 開会
 - ・ 第1回ワークショップの振り返り
 - ・ 子ども委員会からの提案内容について
 - ・ 立川市のCO₂排出状況等の現状
2. 講演 (一橋大学 山下英俊先生)
3. グループ討論
4. 発表
5. 閉会

● 立川市のCO₂排出状況等の現状

「地球温暖化対策」をテーマにグループ討論するため、まずは立川市域におけるCO₂排出状況や、事業者としての市の取組について、市より説明を行いました。

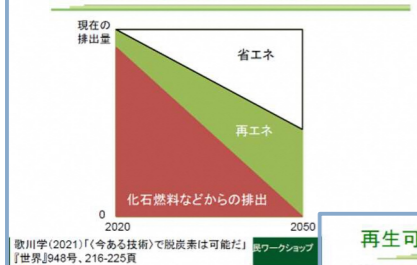
● 講演「地球温暖化対策における省エネ・創エネの必要性」

まず、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて「省エネ・再エネ」が重要になる理由や、全国的な再エネの導入状況を説明いただきました。

また、太陽光発電の導入については、実例データを基に、一般家庭に導入した場合の発電量や投資回収の実態を紹介いただきました。加えて、冷蔵庫の買い換えやエアコン清掃など、省エネ効果の高い取組や再エネ導入の様々な可能性についてもご提示いただき、省エネ・創エネがより身近に感じられる機会となりました。



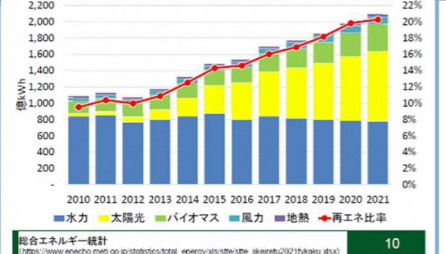
2050年実質ゼロへの道



住宅用太陽光発電の費用(新築)の推移



再生可能エネルギーによる発電量の推移



節電対策(エアコン清掃)実施前後の比較



パネルを乗せる屋根やお金がない場合は？

- ◆ 屋根はあるが、お金がない場合
 - 行政の補助金がない
 - 共同購入で費用を抑えられないか → 生協・農協
 - 金融機関で融資を受けられないか → 10年余りで投資回収
 - お金のある人に屋根を貸してパネルを設置してもらい、発電された電気の一部を買い取る
 - 屋主は電力会社から買う(35円)より安く買える
 - パネル主は国の買取制度(16円)より高く売れる
 - = 上田市民エネルギーの「相乗りくん」
- ◆ お金はあるが、屋根はない場合
 - 屋根を借りてパネルを設置して発電された電気の一部を買い取る
 - 自分のお金だけでは足りない場合も共同出資すればパネルを設置できる

● グループ討論で出た意見 (共通テーマ:脱炭素、地球温暖化)

「地球温暖化」グループでは、既に取り組んでいる省エネ行動等について意見を出し合う中で、立川市民の全員が取り組まないと意味がないという指摘があり、意識を持ってもらうにはどうすればよいか議論を進めました。

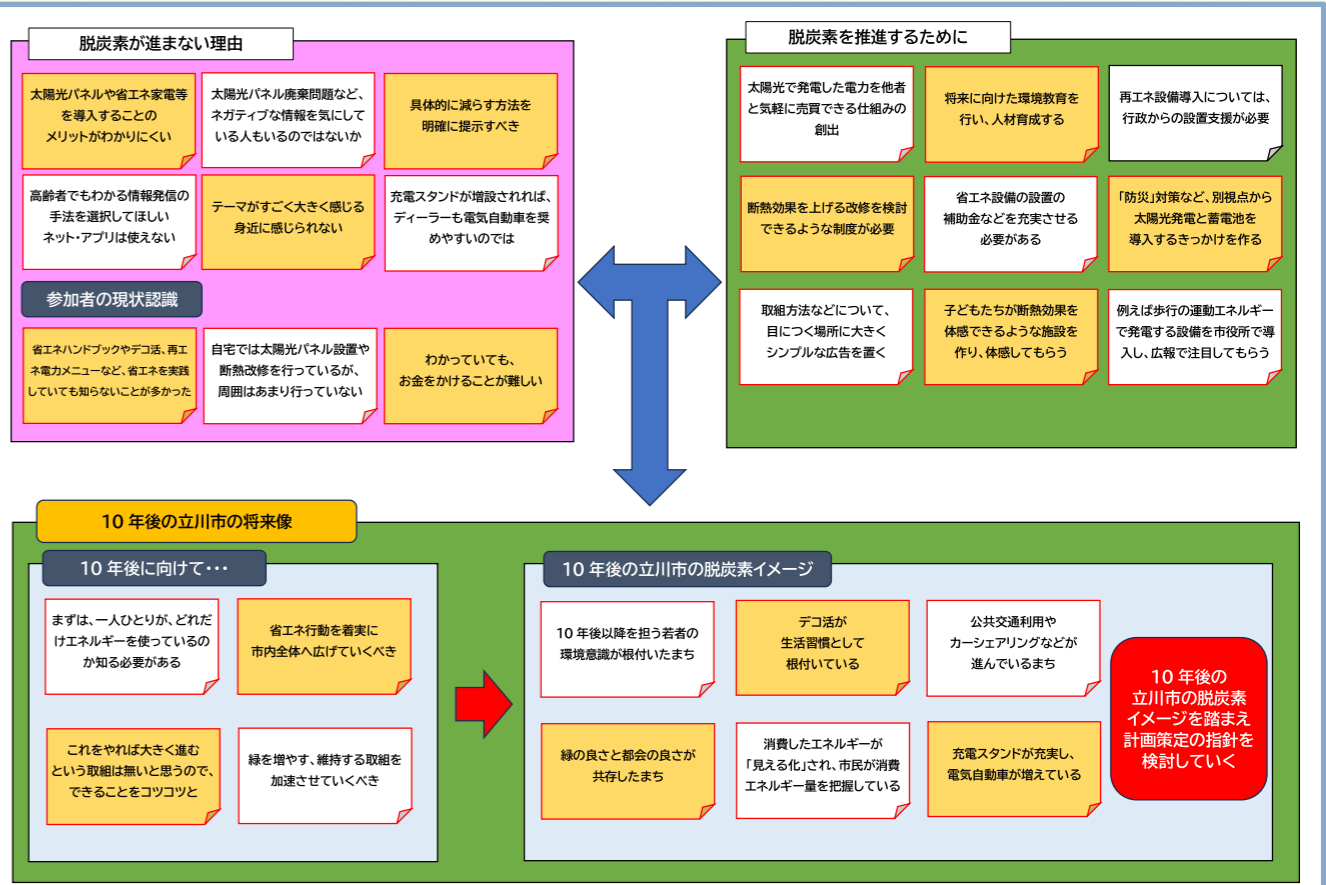


また、脱炭素に向けて進んでいく10年後の姿についての議論では、今後活躍する若い世代の意見が重要だという視点から、高校生たちから聞いた立川市のイメージ(緑と都会の共存、田舎と都会の風情を感じるなど)を大事にしていきたいという意見にまとまりました。

「ごみ減量・美化」グループでは、講演内容を受けて私たちにできる取組について、意見を出し合おうとしましたが、「脱炭素」というテーマの大きさから、身近な視点に落とし込んでいくことが想像できないという率直な意見が多くありました。それを踏まえて、情報をどのように伝えれば、より身近に感じてもらえるか、課題を挙げながら議論を進めていき、「防災」など別分野の視点から取組のきっかけをつくること等の意見があげられました。

「自然環境保全」グループでは、脱炭素の将来像のイメージについて、議論を進めました。意見としては、行政からの情報発信の工夫についてや、デコ活の取組が頑張るものでなく定着しているとよい、充電スタンドを普及して電気自動車が普及したまちになるとよいなどが上がりました。

<地球温暖化対策(脱炭素)に向けた課題と10年後のイメージ>

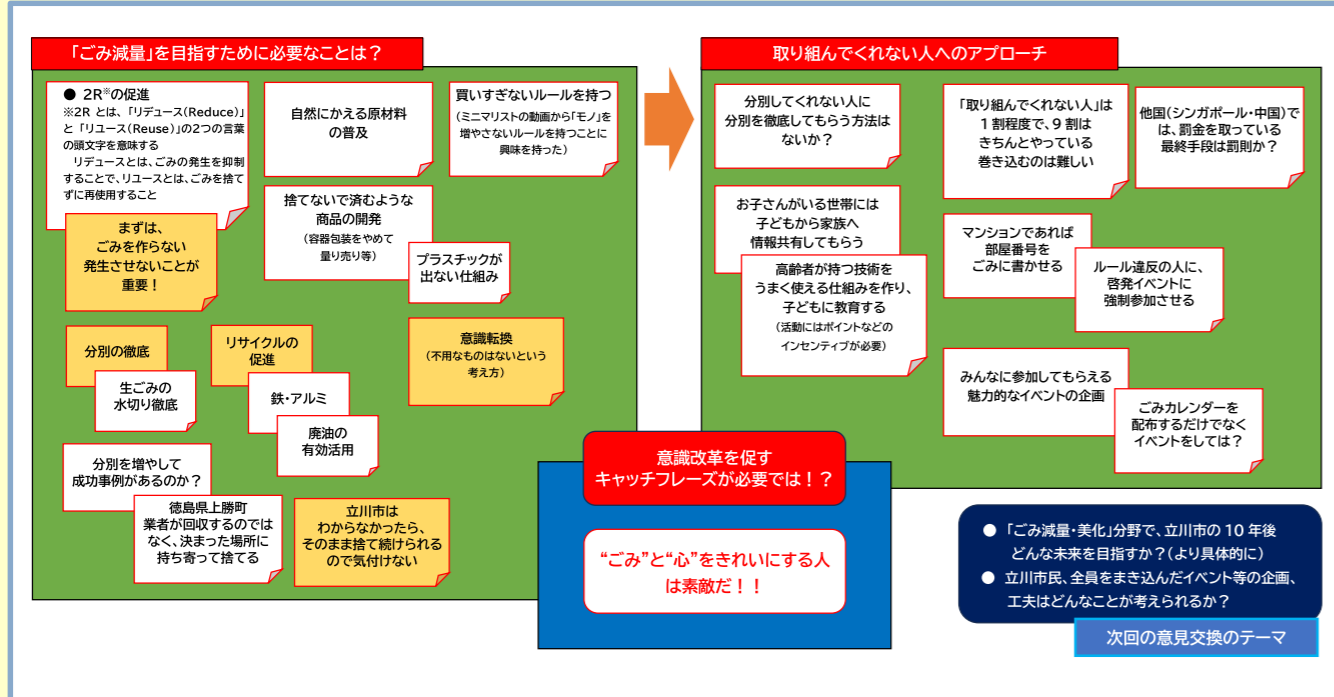


● グループ討論で出た意見 (テーマ:ごみ減量)

立川市が「ごみ減量」を目指すために必要なこととして、まずはごみを作らない、発生させないことが大事だという意見や、リサイクル、分別の徹底といった意見があげられました。また、分別などに取り組んでくれない方々に対する対策について、アイデアやそれに対する課題を挙げながら、全員に取り組んでもらう工夫を検討しました。次回は、子ども委員会からごみの問題についての提案があったことから、立川市民全員をまき込んだイベント等の企画と工夫について考えていきたいと思ひます。



● グループ討論で出た意見 (テーマ:ごみ減量) のつづき
 <ごみ減量に向けた 10 年後の立川市の姿>

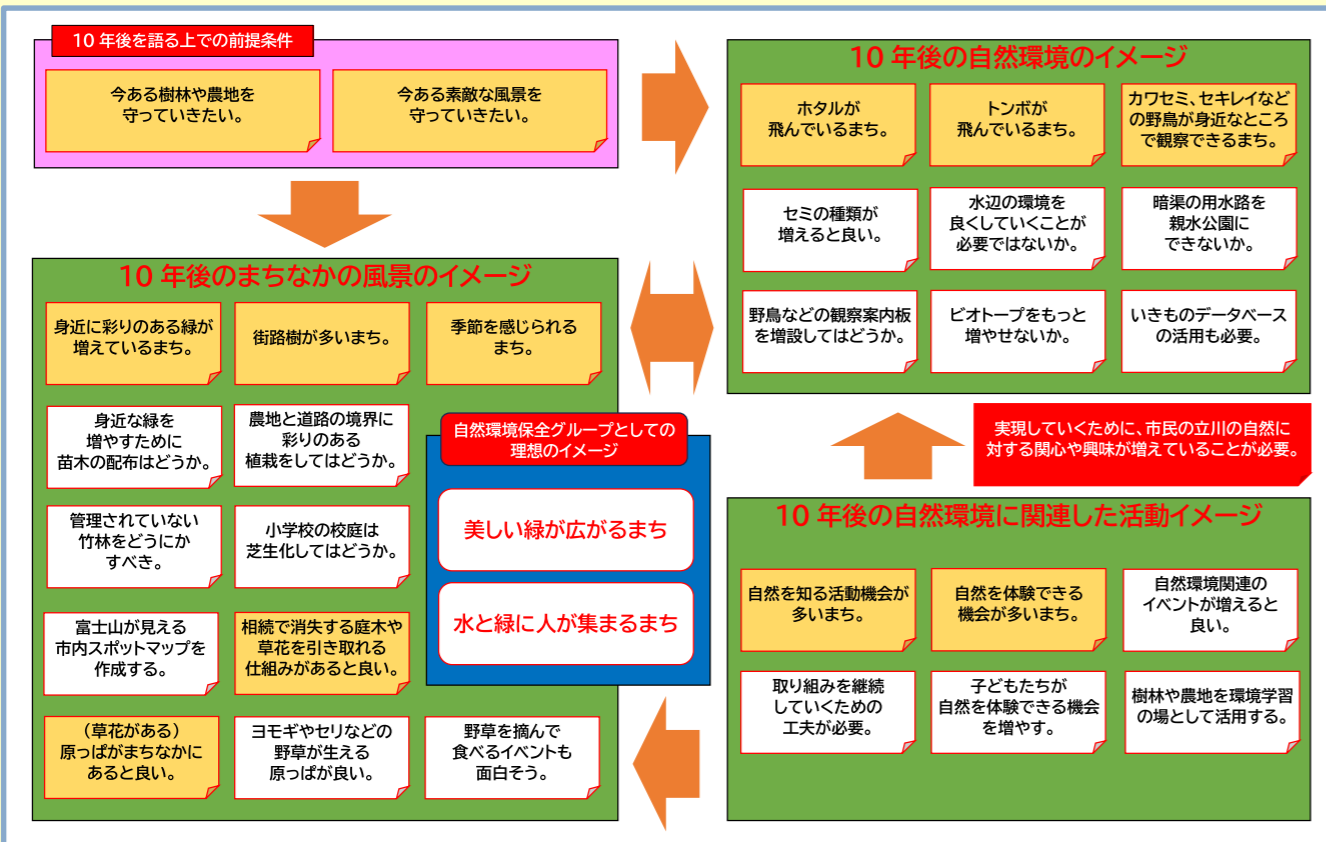


● グループ討論で出た意見 (テーマ:自然環境保全)

まず、“今ある樹林や農地、風景は守っていききたい。”を前提に、将来的には身近な緑がさらに増えているまちや野生のホタルやトンボ、野鳥が身近なところで観察でき、ふれあえるまちといった意見が 10 年後のイメージとしてあがりました。また、そもそも立川市の持つ自然の素晴らしさを知らない人が多いのではないかという視点に立ち、イベントなどにより知きっかけ作りが重要という意見がありました。



<私たちが望む 10 年後の立川の自然環境イメージ>



● 講評 <一橋大学 山下英俊先生>

「脱炭素」について、今日お集まりの皆さんは「知識」とご自宅で太陽光も蓄電池も設置済みという「経験」をお持ちの方が大勢でしたので、驚きましたし、ある意味安心しました。ひとつ大きいキーワードとして「見える化」の話題が各テーブル出ていたと思います。電力会社やガス会社としては、紙の検針票を廃止して、オンラインで確認してもらう方針



になっていて、紙と比べてオンラインで確認する手間がかかってしまうという声が多かったので、事業者の方でも工夫していただく必要がありますし、行政の側でもより確認しやすい形になるような取組を考えていく必要があるという点について、私自身の大きな気付きでした。

また、本日の講座ではお金に余裕のある方の話しかできなかったのですが、行政の支援が特に必要なのは、お金に余裕のない方たちにとって脱炭素に取り組んでいただけるかということだと思います。たとえば、脱炭素政策を福祉の観点とリンクさせた形で、今日の講座でわかるように 10 年、20 年あれば元が取れる、経済的メリットがある事業なので、一時的に出資できない方や、高齢で体力がない、20 年先のことはわからないといった方々に支援を重点的にやるべきではないかと、改めて感じたところでした。

どうやってわかりにくい「脱炭素」を、市民の皆さんに普及していったらよいかという点について、いいスローガンを脱炭素グループには、考えていただけるとよいかと思いました。ごみ減量グループでは、市民みんなで取り組めないという意味がないんだというのが、大事な論点かなと思っております。緑グループでは、豊かな自然のキーワードがどんどん上がってくるのは、立川市のポテンシャルのすごさというのを改めて感じました。現状維持ではなく、それをさらに守って増やしていけるような取組というのが重要な方向性ではないかと思いました。

● 講評 <大妻女子大学 甲野 毅先生>



環境心理学または行動心理学の観点で講評しますと、デコ活などの「環境行動」に移してもらうためにはどうすればよいか、ということが今日のテーマだったと思います。人が行動するにはまず「知識」として知ることが重要になります。一方で、知っていれば行動するかというところではなく、CO₂ 削減量を見える化することが大事という意見に対して、「気付き」が必要だという指摘がありました。これはつま

り「認知」であり、普段の生活のなかで非常に重要です。また、無意識の人が多くという意見もありましたが、そういった方々に「気付き」を促すような何かを考えていただければと思います。次に、「行動」に結びつけるキーワードとして、頑張ったらご褒美があるという「利得感」は非常に大事だと言われています。ルールを守らない方々をどうするかという話題もありましたが、5%のフリーライダー(ただ乗りする人)をどうするのかといった点は社会学でも盛んに議論されます。罰金を設ける、法律を制定するという方法もありますが、最近見直されているのは、規範を作ることです。その人が逸脱できないような雰囲気を作り上げるということですが、マンションでコミュニティをつくったことで、環境配慮行動につながったという事例もあります。このように様々な議論は、理にかなったことであり、私自身も良いキーワードが浮かんで勉強になりました。

議論の中で 1 点足りなかったのは、「楽しさ」の視点です。自転車をこぎながら発電・蓄電するというアイデアは、非常に面白いと思いましたし、コミュニティに所属する楽しさ、交流する楽しさなどは行動につながるということが、ある程度研究で立証されてきています。次回は、「楽しみ」ながら「気付き」を促せるような何かを作り上げていくことで、立川らしさが生まれるのではないかと期待しています。

● アンケート結果 (一部抜粋) ※ アンケート回答者 13 名

Q 講座はいかがでしたか?

- ・先生の実体験もありわかりやすかった。・具体的な内容が多く、わかりやすかった。比較するものが得られた。
- ・戸建ての人は良いが、マンション住まいの場合はどうすればいいかも話を聞きたい。
- ・2050 年カーボンニュートラルの目標達成は厳しいと感じた。もっと抜本的、積極的施策が必要と思う。
- ・屋上設置パネルは、今後どんどん進めていくべきものと思います。助成金を更に充実してほしい。

Q 進行や討議テーマの設定はいかがでしたか?

- ・時間が足りない感じがした。・課題に対してアイデアを持ちよった方がよいと思う。
- ・身近な点から入っているのでも自分の問題意識と合致した

Q そのほか、ご意見・ご感想はありますか?

- ・もっと市民に講演をしてもらいたい。機会を増やしてほしい。・講演の話は参考になった。